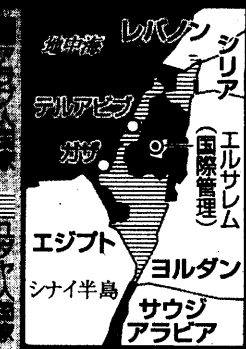


基礎からわかるガザ情勢

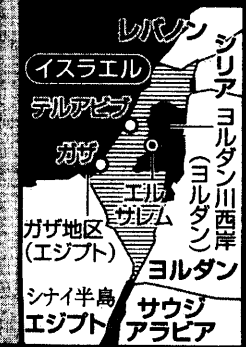
2009.1.8 (木) 読売(朝)

Page 1

中東和平関連年表



① 1947年
国連ハレスチナ分割決議



② 1949年
第1次中東戦争休戦ライン



③ 1967年
第3次中東戦争後



④ 現状

| | |
|-----------|--|
| 1947年 11月 | 国連総会、英委任統治下のパレスチナをユダヤ、アラブ両国家に分割する決議採択。イスラエルは受諾、アラブ側は拒否 |
| 48年 5月 | イスラエルが建国宣言、第1次中東戦争。イスラエルが勝利 |
| 50年 6月 | ヨルダン、ヨルダン川西岸と東エルサレムを統合 |
| 56年 10月 | 第2次中東戦争(スエズ動乱) |
| 59年 | クウェートでファタハ創設 |
| 64年 5月 | PLO発足 |
| 67年 6月 | 第3次中東戦争。イスラエルがヨルダン川西岸、ガザ、シナイ半島、ゴラン高原を占領。東エルサレム併合 |
| 69年 2月 | アラファト氏、PLO議長に就任 |
| 72年 9月 | パレスチナ・ゲリラ、ミュンヘン五輪のイスラエル選手村を襲撃 |
| 73年 10月 | 第4次中東戦争 |
| 79年 3月 | イスラエル、エジプトと平和条約調印 |
| 82年 6月 | イスラエル軍、パレスチナ・ゲリラ掃討のためレバノン侵攻 |
| 87年 12月 | 第1次インティファダ開始 |
| 93年 9月 | 米ホワイトハウスでパレスチナ暫定自治宣言(オスロ合意)調印 |
| 94年 12月 | イスラエルのラビン首相、ペレス外相、パレスチナのアラファト議長にノーベル平和賞 |
| 96年 1月 | アラファト議長、自治政府議長選挙で圧勝 |
| 2000年 7月 | 米キャンプデービッドでアラファト議長とバラク・イスラエル首相が最終地位を巡り交渉も決裂 |
| 9月 | 第2次インティファダ開始 |
| 02年 3月 | イスラエル軍が西岸侵攻 |
| 04年 3月 | イスラエル軍、ハマスの指導者ヤシン師を殺害 |
| 11月 | アラファト議長、パリの病院で死去 |
| 05年 1月 | パレスチナ自治政府議長選でアッバス氏が当選 |
| 8月 | イスラエル、ガザ地区から撤退 |
| 06年 1月 | パレスチナ評議会選、ハマスが圧勝 |
| 7月 | レバノン紛争発生 |
| 12月 | ファタハとハマスの武力衝突激化 |
| 07年 3月 | ファタハとハマスが挙国一致内閣も3か月で崩壊 |
| 08年 12月 | イスラエル軍、ガザ地区の空爆を開始 |
| 09年 1月 | イスラエル軍、ガザ地区に地上侵攻 |

Q 対立のきっかけは

イスラエル軍の攻撃が続き、死傷者が増え続けるパレスチナ自治区ガザ。なぜこのような事態になったのか。中東和平問題の歴史的背景を探り、自治区の現状を報告する。△敬称略 関連記事1面▽

1948年イスラエル建国

アラブ人居住地にユダヤ人国家

パレスチナ(現イスラエル領とパレスチナ自治区)には7世紀以降、イスラム教徒のアラブ人が住んでいたが、19世紀末の近代シオニズム運動と共に、ユダヤ人の帰還が始まり、第2次大戦のナチス・ドイツによるユダヤ人虐殺によって、帰還の波は最高潮に達した。

英委任統治領だったパレスチナの56%をユダヤ人国家に割り当てるパレスチナ分

割決議を採択し、イスラエル建国への道を開いた。(地図①)ユダヤ人にアラブ人の土地を与える決議が採択されたのは、ユダヤ人国家建設を「虐殺を黙認した償い」と考えた欧州諸国をはじめ、ソ連、米国の後押し

があった。だが、ユダヤ人を歓喜させた決議は、パレスチナのアラブ人(パレスチナ人)とユダヤ人武装組織の血を洗う抗争の号砲となった。そして、48年5月の建国宣言と同時に、アラブ5か

割決議を採択し、イスラエル建国への道を開いた。(地図①)ユダヤ人にアラブ人の土地を与える決議が採択されたのは、ユダヤ人国家建設を「虐殺を黙認した償い」と考えた欧州諸国をはじめ、ソ連、米国の後押しがあった。だが、ユダヤ人を歓喜させた決議は、パレスチナのアラブ人(パレスチナ人)とユダヤ人武装組織の血を洗う抗争の号砲となった。そして、48年5月の建国宣言と同時に、アラブ5か

シオニズム ユダヤ人が神に約束されたと信じるイスラエルの地で国家再興を図る運動。近代シオニズムは、ソ連東欧でのボグロム(ユダヤ人迫害)やフランスで起きたドレフュス事件など欧州の反ユダヤ主義に対抗する手段として提唱され、組織化された。割決議を採択し、イスラエル建国への道を開いた。(地図①)ユダヤ人にアラブ人の土地を与える決議が採択されたのは、ユダヤ人国家建設を「虐殺を黙認した償い」と考えた欧州諸国をはじめ、ソ連、米国の後押しがあった。だが、ユダヤ人を歓喜させた決議は、パレスチナのアラブ人(パレスチナ人)とユダヤ人武装組織の血を洗う抗争の号砲となった。そして、48年5月の建国宣言と同時に、アラブ5か

戦争中、パレスチナ人はユダヤ人部隊の襲撃を恐れ、ガザ地区や周辺諸国に逃れた。残した家や土地は、所有者不在財産としてイスラエル国家に接収され、ユダヤ人移民に割り当てられた。今に続くパレスチナ難民問題の発生である。

67年の第3次中東戦争

国軍がイスラエルに侵攻、第1次中東戦争が始まる。イスラエルは5倍の兵力を有したアラブ軍に勝利し、支配地域をパレスチナの約80%に拡大。今のガザ地区はエジプト領、エルサレム旧市街を含むヨルダン川西岸はヨルダン領となった。(地図②)

アラブ諸国は73年の第4次中東戦争を経て、力による領土奪還はあきらめる。エジプトは79年、イスラエルと和平条約を結んだ。

アラブ諸国の無力に失望したパレスチナ人組織は、第3次中東戦争以降、数々のテロに訴え、世界を騒然とさせる。だが、四半世紀の間に中東一の強大国となったイスラエルを動かしたのはテロではなく、占領下の住民の石つぶてだった。

87年12月に始まったパレスチナ人の抵抗運動「インティファダ」は、石を投げる少年にイスラエル兵が

from ①

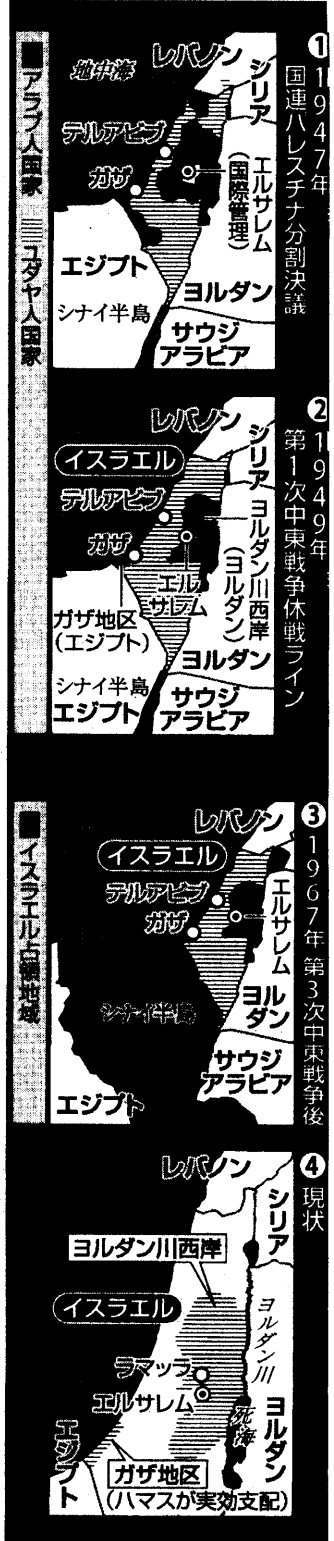
発砲するニュース映像によって、占領の実態を世界に伝えると同時に、イスラエルの左派政権に、180万人(当時)のパレスチナ人を永久に占領下に置くことの非現実性を気づかせた。ラビン、ペレスが主導する労働党政権は、アラファトが率いるパレスチナ解放機構(PLO)に歩み寄る。そして、93年9月、PLOのイスラエル承認と引き換えに、占領地のガザと西岸を段階的に返還することで合意した。歴史的なパレスチナ暫定自治合意(オスロ合意)である。(地図④)

だが、オスロ合意で始まった和平プロセスは、ラビン首相暗殺、その後の右派政権の登場で暗礁に乗り上げる。PLO主流派のファタハによるガザと西岸での自治も、汚職や人権侵害の横行で住民の支持を失い、2006年1月の自治評議会選挙では、イスラム原理主義組織ハマスが圧勝、オスロ合意の先に見えていたパレスチナ国家樹立は、かなたに遠のいた。

基礎

Page 2

●中東和平関連年表



● 今回の侵攻は ハマ
 2006年、ハマスはパ
 レスチナ自治政府の評議会
 選挙に初めて参加した。そ
 れまで続いたフアタハ政治
 の汚職体質に失望する有権

Page 3

パレスチナ自治政府は、ガザ地区(人口150万)とヨルダン川西岸地区(人口250万)で構成される。

イスラム原理主義組織ハマスの本拠地ガザは、地中海に面した東西5〜12時、南北40時の狭い平地。農業のほかこれといった産業はない貧しい地

● パレスチナ自治区は

域だ。

人口の3分の2が60年前のイスラエル建国に伴い故郷を追われた難民とその子孫。このため、反イスラエル感情が強く、街のあちこちでイスラエルと戦って

死亡した「英雄」のポスターが掲げられる。

一方、西岸地区は三重県の面積に相当する5655平方キロ。イスラム教、キリスト教、ユダヤ教の3宗教の聖地エルサレム

に隣接するため、人口の1割はキリスト教徒だ。キリストの生誕地ベツレヘムなど世界的観光地を抱え、隣国ヨルダンとの商業活動も盛んで、開放的な雰囲気がある。

現在、両地区は40キロ離れており、イスラエル領内を通らなければ行き来が出来ない。同国政

府はテロ防止のため、平時でも両地区をそれぞれ高さ8層のコンクリート壁などで囲い込み、厳しい検問を敷いており、往来を取り締まっている。

過去60年にわたり切り離された両地区は、同じアラブ人居住区ながら社会や経済、政治は大きく異なるようになった。

ヨルダン川西岸とガザ地区

イスラム国家設立 イスラエルせん滅

ハマスの目的は

パレスチナ人はイスラエル建国まで、統一した政治組織を持たなかったが、イスラエル軍に故郷を追われた難民たちは、同国打倒を

目指して、軍事・政治両面の機能を持つパレスチナ解放機構(PLO)を1964年に作った。カリスマ的指導者ヤセル・アラファトが指導者となり、74年には国連のオブザーバー参加を果たして、国際的にもパレスチナ人の代表と認知された。

アラファトはその中でも最大の組織。名前は、アラビア語の「パレスチナ民族解放運動」の頭文字を逆につづったものだ。1950年代に設立され、PLO設立後は一貫してその「主流派」として実権を握ってきた。

1987年、パレスチナでは自然発生的に、イスラエル軍の占領統治に対する住民の抗議活動が起きた。「第一次インティファダ(アラビア語で蜂起の意

味)」と呼ばれる運動で、航空機ハイジャックといったPLO式のテロ行為ではなく、イスラエルの戦車に石を投げるなどの手近な手段で占領に抗議した。

ハマスは同年、この闘争の発起点となったガザに生まれた。イスラム教指導者で慈善活動家として人望を集めていたアハメド・ヤシオン師が組織し、現在、ハマスの首相を務めるイスMAIL・ハニヤ氏は、闘争の学生指導者だった。フアタハと異なり、ハマスは寡婦の職業訓練や保育所、病院の経営、貧困層への草の根活動を行い、支持層を広げた。フアタハが宗教にこだわ

らない「世俗主義」をとるのに対し、ハマスは設立憲章で、イスラム法が統治する国家樹立を目指す。その領土は、現イスラエル領を含めたパレスチナ全土と定め、イスラエルの生存権を認めない。

フアタハとハマスは早くから政治、軍事両面で衝突してきた。ハマスは独自に民兵組織を育て、今では約2万の民兵を組織。

2000年に始まった第二次インティファダでハマスは、イスラエルへの自爆テロ攻撃を連発した。同一国がハマスを「テロリスト」として敵視するのはこのためだ。

フアタハ

アラファト
パレスチナ自治政府初代議長に就任
2004年11月、死亡

アッバス
2005年、パレスチナ自治政府議長選で初当選

ハレスチナ自治政府
議長
2007年、ハマスのガザ地区を解放して解任

首相

ハマス

ヤシン
ハマス創設者
2004年3月、殺害

ランティシ
ヤシン師後継者
2004年4月、殺害

ハニヤ
パレスチナ評議会選の勝利を受け、
2006年首相就任

メジャール
政治部門指導者で、
シリアを拠点とする現最高幹部

●ハマスとフアタハの
 相関図
 (敬称略。写真はAPなど)

分裂状態に

② 今回の侵攻は ハマス停戦破棄が発端

← 者の支持を集め、議席(120)の過半数を獲得。ハニヤ首相が就任した。選挙結果はイスラエルと米国に衝撃を与えた。 Hamasは「イスラエルせん滅」を掲げるだけでなく、米国を敵視するイランやシリアから支援を受けていたからだ。

Hamasは翌07年6月、治安組織の指揮権をめぐる対立をきっかけに、ファタハをガザから武力で放逐した。ファタハのアッバス自治政府議長は独自に元世界銀行職員のアヤド首相を指名、組閣させたため、パレスチナで二つの政府が併存することになった。

昨年6月、 Hamasはエジプトの仲介でイスラエルと半年間の停戦を結んだ。ロケット弾攻撃をやめる代わりに、 Hamas政府発足以来、イスラエルが科してきた経済封鎖の緩和を期待してのことだったが、封鎖解除は進まず、12月に一方的に停戦破棄を宣言。攻撃を再開したため、イスラエルによるガザ侵攻を招いた。

カイロ・宮明敬、エルサレム・三井美奈、国際部・平本秀樹、横堀裕也が担当しました。